



令和6年度 第6号

美瑛町立美馬牛小学校

令和6年9月26日発行

全道へき複教育研究大会無事成功 前期のまとめ「通知票」配付 校長 山田 裕子

秋の気配が漂い、農家の方々が丹精込めて耕した畑が、帯のように色づき、収穫されていく姿に、感動を覚える日々です。四季折々に、色彩を変化させていく美しい美馬牛の丘の風景です。

第73回全道へき地複式教育研究大会・第4分科会・美馬牛小学校の授業公開が、無事、終了いたしました。本大会には、美瑛町教育長・鈴木貴久様をはじめ町内からは8名の来賓の方々、そして、北海道へき地・複式教育連盟の役員の方々が、遠くは渡島管内から駆けつけていただきました。一般参加では根室管内からもご来校いただき、そして助言者としては、北海道教育庁空知教育局・高橋明子指導主事様をお迎えし、ご来賓・一般合わせて、80名の方々にご参加いただきました。

本研究大会・上川大会の実行委員会が立ち上がったのが、昨年度の5月のこと。北海道へき地複式教育研究大会上川大会の実行委員会の皆様にお世話になり、参集とオンラインの両方で行うハイブリッド開催に向け、3度にわたる大規模な配信テストをはじめ、準備を積み重ねてまいりました。

昨年度実施の胆振管内からのバトンを受け継ぎ、校内では、大田千夏研究部長を中心に、準備を進め、1・2年学級の清水奈月教諭、5・6年学級の佐藤志持教諭の授業公開を行い、子どもたちの力が最大限発揮できた授業を、全教職員一丸となって公開することができ、ほっといたしました。



今回、本校の授業公開で、こだわった点は、「子どもたちが主語の授業」ということでした。時代が大きな変革を迎える今、私たちもこれまでの授業観を大きく変え、これからの時代を切り拓いていくことのできる力を、子どもたちにつけようというものでした。子どもたち自身が、様々な課題を解決する力を身に付け、仲間と協働して取り組み、新たな価値観に気付いていく、そんな授業の展開に挑み、子どもたち自身でできることは子どもたちに委ね、小規模・複式学級の環境をメリットとして、個別最適な学びや協働的な学びを進めてまいりました。小規模・複式学級では、少人数ゆえに教師の目が子どもたちに行き届き、子ども

たちが自ら表現しなくても済んでしまうという傾向がありますが、そこを敢えて、子どもたち自身が表現することにこだわり進めてまいりました。

公開授業は、体育館で行われましたが、子どもたちは臆することなく発表をし、自分たちで考え、リーダーを中心に話し合いを進めながら学んでいました。授業後に行われた研究討議では、「小学校1・2年生の授業でも（1年生の子どもたちは、入学して、半年しかたっていない）ここまでできるのですね」とか「『まとめが、課題にあっていません』と子どもたち同士で言い合うことができ素晴らしい」、「どうやったら、このような5・6年生の授業を展開できるのですか?」というお褒めの言葉をいただき、うれしい限りです。ここまでの授業を創りあげることができたのは、教職員の総力で、これまでの積み重ねと連携の賜でした。「美馬牛小の授業は、一日にしてはならず」と、私も感嘆させられました。もちろん、授業者の清水教諭と佐藤教諭が、最後の最後まで子どもたちの可能性を信じて、まとめあげていたのは、言うまでもありません。本研究大会は、来年度、「ファイナルステージ」として2年目が行われることになっています。より磨きをかけ、教職員全員で新たな時代を切り拓いていくことのできる子どもたちの育成に努めていきます。



学校生活は4月から半年が経ち、9月末日に子どもたちの一人一人の成長の様子を「通知票」で家庭にお知らせします。毎日、意欲的に学習に取り組み、心も体もたくましく成長している様子をお伝えすることができ、うれしく思います。11月2日（土）は、学芸会の予定です。地域の皆様のご来場をお待ちしております。

学校評価へのご協力、ありがとうございました！

1学期に行った学校評価へのご協力ありがとうございました。集計結果をお知らせいたします。

R6 前期学校評価の集計結果①

児童の質問項目との照合を中心に

内容	回答	質問項目	R5				R5		R6	
			4	3	2	1	前期	後期	前期	変化
育成 すべき 資質・ 能力	児童	勉強や行事のときにはめあてを決めてがんばった。①	15	9	1	0	3.4	3.6	3.6	→
	保護者	家庭学習や宿題などに取り組むときに、粘り強く頑張る様子が見られることが増えてきた。①	4	7	3		2.8	3.2	3.1	
	教職員	「ねらいに向かって協働し粘り強く努力する力」の育成に向けて教育活動が行われている。①	2	9	0	0	3.2	3.1	3.2	
	児童	自分の思いや考えを伝えたり、話し合ったりしている。②	17	6	2	0	3.4	3.5	3.6	
	保護者	お子様は、自分の意見や考えをしっかりと話すことが増えてきた。③	6	8	0	0	3.1	3.3	3.4	
	教職員	「自分の思いや考えを広く伝える力」の育成に向けて、教育活動が行われている。③	2	9	0	0	3.0	3.1	3.2	
学習 指導	児童	学校の授業で、勉強がよくわかるようになった。③	17	8	0	0	3.7	3.6	3.7	
学習 指導 の工夫 など	児童	授業ではChromebookを使ったり、話し合い活動をしたりなどの工夫があって楽しい。④	19	4	2	0	3.7	3.7	3.7	→
	保護者	ICTの使用や話し合い活動を取り入れるなど、わかりやすい授業づくりに努めている。⑥	1	10	3	0	3.2	3.2	2.9	↓
	児童	先生たちは、ていねいにわかるまで教えてくれる。⑭	21	4	0	0	3.7	3.8	3.8	→
	保護者	よりよい授業や諸活動・行事づくりのために、工夫をして取り組んでいる。⑳	7	6	1	0	3.5	3.5	3.4	
	教職員	確かな学力の定着を目指し、ICTの活用や多様な活動を取り入れた授業を提供している。㉑	5	6	0	0	3.4	3.2	3.4	↑
家庭 学習	児童	学年×10+10分（例：小学校1年生 1×10+10分＝20分）以上を目標に家庭学習や宿題をやっている。⑤	9	9	5	2	3.1	2.7	3.0	↑
	保護者	宿題や指導により、学年×10+10分（例：小学校1年生 1×10+10分＝20分）以上の家庭学習に取り組んだり、家庭での学習する機会が増えている。⑦	1	9	3	1	2.4	2.7	2.7	→
	教職員	家庭学習の習慣化を目指して子どもに応じた課題を出すなど工夫している。⑧	2	9	0	0	3.2	3.3	3.1	↓
道徳 指導	児童	道徳の勉強では、自分と違う意見や考えを聞いたり、話し合ったりしている。⑥	18	3	4	0	3.6	3.3	3.5	↑
	保護者	子どもの言動から、協力したり、他者を思いやったりする意識が高まってきている。⑧	2	11	1	0	3.3	3.2	3.1	
	教職員	考え、議論する道徳などを通じて、他者とともによりよく生きる基盤づくりに努めている。⑨	2	9	0	0	3.1	3.2	3.1	
学校 生活	児童	いじめなどもなく、安心して登校している。⑦	22	3	0	0	3.6	3.8	3.8	→
	保護者	いじめなどもなく、子どもたちが安心して登校できるように努めている。⑨	7	7	0	0	3.3	3.4	3.5	
	教職員	いじめ等のない、安心・安全な学校づくりに努めている。⑩	6	5	0	0	3.3	3.1	3.5	↑
	児童	楽しく、充実した学校生活を送っている。⑧	21	4	0	0	3.7	3.8	3.8	→
	保護者	子どもたちが、楽しく、充実した学校生活を送れるように努めている。⑩	6	7	1	0	3.4	3.5	3.4	
	教職員	学校生活において、共感的に他者を理解する能力や態度を培い、よりよい人間関係を構築していけるように努めている。⑪	5	5	1	0	3.5	3.4	3.3	
キャリア 教育	児童	授業などで自分の将来の夢や、やってみたいことなどについて考えることができた。⑨	14	7	3	1	3.4	3.1	3.3	↑
	保護者	家庭において、将来の夢やなりたい職業、やってみたいことなどを話す場面が見られるようになってきた。⑫	1	9	4	0	2.9	2.8	2.8	→
	教職員	総合や学活などを通して、将来の夢への意識をもたせている。⑬	0	9	2	0	3.0	2.8	2.8	→
規律 遵守	児童	みんなが気持ちよく生活するために、きまりを守っている。⑩	15	10	0	0	3.6	3.6	3.6	→
	保護者	学校や社会のルールを守って行動しようとする意識が高まってきている。⑭	5	8	1	0	3.4	3.5	3.3	↓
あいさつ	児童	友だちや先生たちに元気なあいさつをしている。⑪	18	6	1	0	3.6	3.5	3.6	
	保護者	あいさつや正しい言葉づかいが身に付いたのを感じる。⑮	1	10	3	0	3.1	3.3	2.9	↓
	教職員	あいさつや正しい言葉遣いができるよう、児童に指導している。⑰	2	8	1	0	3.1	3.1	3.0	
健康・ 安全 管理	児童	健康や安全に気をつけて生活している。⑫	21	3	1	0	3.7	3.6	3.8	↑
	保護者	自分の健康のために、生活リズムや食べ物のバランスなどに気をつけたり、自他の生命の安全を心がけて生活したりしている。⑯	3	5	6	0	2.9	2.9	2.8	
	教職員	家庭と協力して基本的な生活習慣の確立と健康の維持改善への意識を高めるとともに、自他の生命を守る意識を高めさせるように努めている。⑱	2	9	0	0	3.4	3.1	3.1	→

体力向上	児童	体育や休み時間に、グラウンドや体育館で、たくさん体を動かしている。⑬	19	3	3	0	3.4	3.3	3.6	↗
	保護者	体力の向上にむけた指導に積極的に取り組んでいる。⑰	2	9	2	1	2.9	2.9	2.9	→
	教職員	授業や休み時間などを通して、運動習慣作りや体力の向上に努めている。⑱	2	9	0	0	3.4	3.0	3.2	↗
親しみやすさ	児童	先生たちはいつもそばにいてくれて、話しかけやすい。⑮	22	2	1	0	3.6	3.7	3.8	
	保護者	担任をはじめとして教職員は話しかけやすい雰囲気である。⑲	8	5	1	0	3.6	3.8	3.5	↘
公共心	児童	学校でみんなでするものや場所を大切にしている。⑯	21	4	0	0	3.7	3.7	3.8	

R6 前期学校評価の集計結果②

内容	回答	質問項目					R5		R6	
			4	3	2	1	前期	後期	前期	変化
育成すべき資・能力	保護者	お子様は、自分でものごとを決めたり、振り返りや反省をし、次に生かそうとしたりすることが増えてきた。②	2	10	2	0	2.9	3.1	3.0	
	教職員	「自己決定・見通し、振り返りながら学習する力」の育成に向けて教育活動が行われている。②	3	8	0	0	3.2	3.5	3.2	↘
教育課程	保護者	学校は、地域の環境や人材を教育活動に活かすなど、小規模校の良さを生かした教育活動を工夫し、実践している。④	7	5	2	0	3.4	3.4	3.4	→
	教職員	地域の環境や人材を教育活動に活かすなど、小規模校の良さを生かした教育活動、開かれた学校づくりに努めている。④	3	7	1	0	3.1	3.5	3.1	↘
	保護者	小学校と中学校が目指す子ども像「生きる力を身に付け、他者とともに未来へ歩む」を設定し、協力しながら教育活動を行っている。⑤	3	8	3	0	2.9	3.1	3.0	
	教職員	小学校と中学校が一貫教育に向けて連続性・系統性をもって、連携して教育活動が行われている。⑤	0	7	4	0	2.6	2.6	2.6	→
特別活動	保護者	運動会や諸行事などで主体的に活動し、役割を果たそうとする子どもの様子がうかがえた。⑪	9	5	0	0	3.7	3.7	3.6	
	教職員	児童会・学級活動などを通して、子ども一人ひとりが主体的・創造的に活動できるよう、指導の工夫を図っている。⑫	3	8	0	0	3.2	3.4	3.2	↘
話し合い・表現	保護者	授業や運動会などの諸行事の発表活動を通じて、表現力が身に付いてきている。⑬	4	10	0	0	3.4	3.5	3.3	↘
	教職員	各教科等で言語活動を充実させる取組を行い、表現力を高めている。⑭	3	7	1	0	3.3	3.1	3.1	→
個別支援	保護者	子ども一人ひとりへの状況に応じた手助けや心配りができている。⑩	6	5	3	0	3.4	3.5	3.2	↘
	教職員	通常学級・支援学級にかかわらず、子どもの状況や特性、発達の程度に応じたきめの細やかな指導の充実を図っている。⑳	8	3	0	0	3.6	3.5	3.7	↗
環境整備情報発信	保護者	校内外の環境整備に努めたり、学校だよりや学級通信などで、様々な学校の取組などを伝えようとしている。㉑	9	5	0	0	3.6	3.6	3.6	→
保護者・地域との連携	保護者	保護者と教職員が一体となり、連携を図りながら子どもたちのために活動を推進している。㉒	4	9	1	0	3.4	3.4	3.2	↘
	教職員	教職員がPTA、CSなどと連携を図りながら、美馬牛の9年間で目指す子ども像に向けて子どもたちのために活動を推進している。㉓	1	9	1	0	3.0	2.9	3.0	

学校評価の結果を受けて

□全体を通して

児童の評価が高い、または上がっている項目が多く見られます。そのことをプラスにとらえながら、保護者や教職員などの大人の側からも評価が高まる取組を進めていきます。

□学習指導の工夫などについて

保護者の方の評価が低い傾向にあります。普段の授業では日常的に工夫し、児童や教職員の評価も上がっていることから、参観日で普段取り組んでいる「ICT活用」「話し合い活動」などを見ていただく場面を、今後設定することに努めます。

□キャリア教育について

児童の評価は上がっていますが保護者・教職員は横ばいでした。コロナ禍が終わり、地域の皆様とふれあいながら学習できる環境になってきたことをもとに、児童の視野を広げられるよう、キャリア教育を進めていきます。

□あいさつ・健康安全・体力向上などについて

児童の評価の高さに比べると、保護者の方や教職員の評価は低いです。あいさつや言葉遣いはわれわれ大人がまず意識することが大切かと考えます。また、アンケートに記述いただいたことをふまえ、お迎え時の児童の遊び方について全校で指導し、保護者の方の駐車の仕方についてご協力いただき安全面の改善を図っています。

※後期の学校評価は11月を予定しております。次回もご協力よろしくお願いたします。

ふるさと学習 ～3日:6年生～ ～20日:4年生～



6年生は3日に美瑛小へ行き、テーマごとにグループを作って美瑛をよりよくするアイデアをまとめ、発表しました。まとめたものが役場・図書館・町民センター・bi.yellに10月18日まで掲示されています。ぜひご覧ください。

4年生は20日に第1号堰堤や砂防情報センターに出かけ、十勝岳について詳しく学びました。火山に対して理解を深め、防災意識も高まったようです。



一日防災学校

4日に、噴火を想定した避難訓練を行いました。また、避難所になった際の生活や備蓄品について役場の危機対策室の方からお話を聞いたり、段ボールベッドを実際に作ってみたりと、体験的な防災学習を行うことができました。危機対策室の多加様・藤原様、ありがとうございました。



後期児童会選挙

10日に後期の児童会役員を決める立会演説会と投票が行われました。3名の児童が立候補し、「どんな美馬牛小学校にしたいか」を自分の言葉で堂々と演説していました。責任者や選挙管理委員会のメンバーも、それぞれの立場で力を尽くした素晴らしい選挙でした。



全道へき地複式教育研究大会

19日、全道から80名を超える先生方を迎え、全道へき地複式教育研究大会 上川大会ファーストステージを開催しました。児童が自ら課題を見つけ、協働して解決していく授業を目指し、これまで培ってきた力を発揮すべく、児童も教師も全力を尽くしました。

「学習リーダーが育っていますね」「一人一人が自分の考えをもって説明できて素晴らしいです」など、これまでの取組の成果が確認できる言葉をたくさんいただきました。大会は来年度も「ファイナルステージ」として行われます。さらに生き生きと児童が学ぶ授業づくりを進めていきます。



<10月の主な行事>

- 1日(火) 朝会(認証式)
- 2日(水) 上教研中部地区研究大会
(臨時休業日)
- 3日(木) 敬老会
- 7日(月) 朝会
- 8日(火) 後期児童総会 PTA四役会議
- 9日(水) 校舎外清掃 食育(低)
- 10日(木) 給食試食会(低) 参観日
- 11日(金) 校舎外清掃
- 14日(月) スポーツの日



- 15日(火) クラブ 学芸会特別時間割開始
(～11月1日<金>)
- 16日(水) 食育(中)
- 22日(火) 委員会(学芸会)
- 23日(水) 食育(高)
- 30日(水) 代表委員会
- 31日(木) 学芸会総練習